

友だちの中で、安定していきいきと生活する子

田中 信子

はじめに

てんかんの障害をもつA児は、明るくて活発であるが、自分の思いのままに行動しようとして、友だちとうまく関わるることができないし、学習や生活のリズムが体調や気分によって左右されやすい。T児が学級に転入してきたことや仲良しだった友だちと離れたこと等の環境の変化に対応しきれないでいたA児が、友だちの中で学習したり、遊んだりしながら、安定していきいきと生活する子になっていった経過について述べてみたい。

1 プロフィール

(1) 生育歴

- 昭和57年12月22日生 8歳10か月 小学部3年生 男子 (第2子)
- 出産正常 発育状態もほぼ良好。(首のすわり3か月 発歯11か月 歩き始め12か月)
- 2歳の時、熱性けいれんにかかり、てんかんと診断され3か月入院。(難治性てんかん)
- 昭和62年4月 M保育所入所。
- 平成元年4月 本校小学部入学。

(2) 諸検査による実態

- 図1で示す遠城寺式乳幼児発達検査では、2歳6か月～3歳8か月の発達を示している。
運動面に比べ言語理解、対人関係の遅れが見られる。
- MEPAでは現在第4ステージ(19～36か月粗大運動確立ステージ)を通過中である。言語、社会性の分野では遅れが目立つ。(P55参照)

(3) 行動特性

- 好奇心が強く色々なものに興味、関心をもつ。
- 教師や友だちと関わりを持とうとするが、集団が大きくなると恥ずかしがる。
- 友だちのしていることや口ぐせを真似たがる傾向にある。
- 手指の機能が未分化のため、指先を使っての作業や衣服の着脱などの技能面での遅れが目立つ。
- 机上学習や学習内容に興味のない時は、ぼんやりしてしまいがちであるが、体を動かしたり好きなことに対しては意欲的に取り組むことができる。
- 月に5～8回の割合で発作が起こる。多くは睡眠から目覚める時に起こりやすい。

項目	発達年齢
	2 2 2 3 3 3 4 4 : : : : : : : : 3 6 9 0 4 8 0 4
移動運動	
手の運動	
基本的生活習慣	
対人関係	
発語	
言語理解	

図1 遠城寺式乳幼児発達検査 (H. 3. 5実施)

2. 取り組みの構想

A児が友だちの中で、安定していきいきと生活する姿を目指し、以下の構想でアプローチしたいと考えた。

(1) 指導仮説

てんかんの発作という障害をもっている本児は、服薬によりうつろな状態になったり、活発でないことが多い。そのため薬との関連も考えながら、ふだんの生活においては、刺激をなるべく与えて、好奇心や探求心、達成しようとする気持ちを効果的に援助し、満足感や充実感をもつように配慮すると、物事に自分からかかわろうとする意欲が生まれ自信をもつことにつながる。本児が熱中してがんばれる興味ある活動を用意することによって友だちとの好ましい関わり方が達成できると考える。

(2) 指導方針

- ① 好きなことを通して意欲的に行動させ、得意な遊びや学習に集中させる。そのことによって、満足感や充実感を味わわせ自立心を育てていく。
- ② 友だちと関わる場面を大切にし、友だちとふれあう楽しさを味わわせ、楽しい学校生活が送れるようにする。
- ③ 医療や家庭との連携をとり、体調に留意する。

3. 指導の実際

(1) 日常生活での取り組み

着替え・朝の会・排泄・食事・歯みがき・遊びなど毎日繰り返し行う活動を一日の流れの中でパターン化することにより、本児にも見通しがたち、安定した状態で学校生活が送れる。安定した生活リズムの確立が、意欲を持って生活する子になっていく。以下はA児の変容の様子の一部である。

	4月の実態	手だて	10月現在
着替え	<ul style="list-style-type: none"> ・甘えて自分からはしようとしなないこともある。 ・体操服の前後、表裏が反対になっていても平気である。 ・他に気をとられ20分かかって着替える。(調子の良くない時) 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと競争させたり、ひとりでしたらほめる。 ・絵や名前のついている方が前と声かけをする。鏡を見て直させる。 ・時間内にできたらシールを与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分ひとりで着替えることができた。 ・時々反対に着ているが、鏡を見ておかしいことがわかり、直させると正しくできる。 ・シールを出さなくても着替えの時間が早くなった。
朝の会	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の挨拶やひげじいさん等の手遊びをする時、おとなしく椅子に座っていてあまり活動しない。 ・健康観察の係で「〇〇さん元気ですか」と言うのに、はずかしそうにして名前がなかなか言えなかった。教師と一緒にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会を好きな活動をした後にする。 ・歌をたくさん歌う。 ・友だちの応援や教師の声かけや良いところをすごくほめて自信をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の挨拶や手遊びがリズムに合わせてでき、声も大きくなってわかりやすくなった。 ・みんなの前で歌ったり、黒板に10月の十を書くことができた。 ・自信ができて、ひとりで最後まで健康観察ができるようになった。 ・声も大きくなってきた。

遊 び	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり遊びが多い。 ・好きな遊びに熱中したら、学習時間になっても遊びをやめようとせず指示に従えない。 ・友だちとトラブルをよくおこす。(友だちを押す、遊んでいるものを取ってしまう等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・声かけや遊びの場を意図的に設ける。 ・きまりを守った時、大げさにほめる。 ・学級の友だちだけでなく他の学級の友だちとも関わらせる。 ・仲よくするよう約束する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと遊ぶことが多くなった。(遊びの種類や質的な変化) ・少しずつきまりが守れるようになってきた。 ・仲良く上学年の友だちとも遊べるようになった。
--------	--	---	---

(2) 生活単元学習での取り組み

好きなことを通して意欲的に行動した実践

本児は音楽が好きであるが、進んで人前で歌うことはなかった。第1回目の仲良し宿泊での夕べのつどいでは、何度も練習し得意な「働く車」の歌を大きな声で気持ち良さそうに歌った。H子やT児が気おくれしないで歌ったことにも影響され、楽しい雰囲気の中で歌うことができた。この自信が、合同音楽での「ハイキング」の歌を進んで歌う力になってきたように考える。カラオケ大会やイントロクイズがとても好きになった。

「水遊び」の単元では、本児の好きな水鉄砲で遊ばせたり、体に絵具をつけてシャワーで洗ったりアンパンマンになったつもりで着替えを早くする等本児のみたて・つもり活動の遊びを取り入れたため授業に集中できた。

今年の運動会の「おさるのかごや」で使う道具づくりに取り組んだ。バナナの木作りやバナナ作りをして、運動会への参加意欲を高めていった。本児は、はさみで線にそって切ることは難しいが、紙をちぎってのりをつけて貼る活動は好きなことの1つである。授業が始まると、黙って取り組み、熱中してくると自分でひとり言を言いながら、たくさん紙を貼ることができた。のりの適量を教えたり、おてふきを用意しておくことがいいということを指導した。のりはたくさんつけることが好きであり、のりつけの技能はまだ向上していない。しかしやろうという意欲は持っていた。



マイクを持って熱唱するA児



ボディペインティングを

楽しむA児



集中してバナナの木を作るA児

(3) 合同体育での取り組み

みたて・つもり活動を取り入れた実践



ハットリ君になって
ボール投げをするA児

「ハットリくんになろう」の取り組みは、本児の好きな活動であり、意欲的に取り組んだ。どの時間も、忍者ハットリ君に変身して楽しんで学習に取り組めた。ハットリ君の歌が流れるとすぐに乗ってきてやる気になり変身ポーズをとったり、忍者らしいまねをして、跳んだり、平均台を渡ったり、ボールをまどに描いたライオンめがけてぶつける等楽しんでいった。本児は下肢の力が弱く援助を必要とするグループであったが、進んで何度も練習していく中に瞬発力、調整力、柔軟性等が養われてきた。平均台渡りは、初めよく落ちたり、援助してもらっていたが、何度も繰り返すことによってひとりですでにできた。ボールをライオンに投げてやっつけようという気持ちが出てきて、ボールを上手から投げられるようになった。ハットリ君のバッチをもらったり、忍者の手裏剣をもらったりしてとても喜んで取り組めた。

(4) 医療や家庭との連携

学校・家庭・医療とのパイプをつなぎ、三者で本児の体調や生活の様子についての実態を把握した。その方法として、発作の記録や毎日の生活ノートによる家庭生活の様子を中心に行ってきた。学校でも体調をチェックすることやからだを動かした後の休息の時間をしっかり確保するなど無理のない生活リズムの確立に務めた。その結果、本年度の場合、家庭での発作回数も9月以降減少し、学校でも落ち付いて活動に取り組めるという良い状態が続いている。

4. 考察と今後の課題

みんなの中では、はずかしがり屋で消極的であったA児が、好きな活動を通して、学習に意欲的に取り組み、からだを動かすことを楽しむ子になってきた。熱中してがんばれる興味のある活動を用意してきた成果であると考えられる。

友だちとの関わりも、遊びを中心としての学校生活全般の指導で良くなってきている。

MEPAを9月再度検査した。5月にできなかったことができたり、できかたも確実になったりしてきている。学校生活全般の指導でこの成果が表われていると思われる。

友だちの中で、いろいろな経験を重ねていくことによって、自信がもて安定した状態で学校生活が送れるよう、今後とも、医療との連携を図りながら指導に取り組んでいきたい。

7	61-72	28	28	28	27	27	29						
6	49-60	27	27	27	25	25	27						
5	37-48	26	25	25	23	23	25						
4	19-36	22	22	22	21	22	22						
3	13-18	22	21	21	20	21	20						
2	7-12	19	19	19	17	17	19						
1	0-6	16	16	16	16	16	16						
		17	17	17	15	15	17						
		16	16	16	14	14	16						
		15	15	15	13	13	15						
		14	14	14	12	12	14						
		13	13	13	11	11	13						
		12	12	12	10	10	11						
		11	11	11	9	9	10						
		10	10	10	8	8	9						
		9	9	9	7	7	8						
		8	8	8	6	6	8						
		7	7	7	5	5	7						
		6	6	6	4	4	6						
		5	5	5	3	3	5						
		4	4	4	2	2	4						
		3	3	3	1	1	3						
		2	2	2	1	1	2						
		1	1	1	1	1	1						
7月	分野	空	騎	特	技	巧	受	容	表	出	列	入	備

第1回 評定	3年5月	日	評定	満8才5ヵ月
第2回 評定	3年9月	日	評定	満8才9ヵ月